

平成 26 年度第2回長野市文化芸術振興審議会会議録

- 1 日 時 平成 26 年 12 月 1 日(月) 午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 長野市職員会館
- 3 出席者(委員) 中山裕一郎委員、伊藤有希委員、金澤茂委員、多田井幸視委員、
海沼和幸委員、清水隆史委員、村松正夫委員、徳武志げり委員
(職員) 堀内教育長、青木文化財課長、竹内文化芸術推進課長、
柳澤課長補佐、中野係長、手塚主事、大川主事
- 4 議 題
- (1)文化芸術の振興にかかる今後の取り組みについて
- (2)長野市芸術館について

主な内容

(1)文化芸術の振興にかかる今後の取り組みについて

委員	助成金の対象となる事業はどのようなものか。
事務局	声楽のコンサート、絵画展、写真展など幅広いジャンルの活動で、5人以上で構成する団体に対し、助成している。。
委員	柳町に彫刻家 佐藤忠良氏の野外彫刻賞作品がある。そのような一流の作品をピックアップし画集にして全国の方に見ていただき、長野に行けば一流の作品に出会えるということを周知したらどうか。
委員長	八十二文化財団では県内の史跡の写真をまとめ立派なものを作っている。広報の必要性はある。
委員	野外彫刻について寄せられる意見とは、どのようなものか。また、予算額はどのくらいか。
事務局	もっと重要なものに予算を使うべきで、野外彫刻は必要ないだろうという意見、中央通りに野外彫刻を集積し、観光客にもPRしたらどうかという意見など様々なものがある。 作成費用については小さな作品は 350 万円、大きい作品は 500 万円、そのほかに、設置費用、メンテナンス費用、野外彫刻めぐりや写真コンテストに要する経費がある。

委員	簡単に対比はできないが、野外彫刻の多額の予算額に対し、助成金予算は400万円以下ということで、その予算額が妥当かどうか疑問に思う。 また、「野外彫刻賞」といいながら、公募もしないし、選考基準もあいまいであって、「賞」ではなく「事業」であると思う。選考委員の中に長野市の人がいないのもどうか。 「野外彫刻利活用検討委員会」はどのような構成か。
事務局	かつては選考委員会に長野市在住の委員はいたが、現在はいない。 「野外彫刻利活用検討委員会」には、野外彫刻が置かれている公園・道路などを管理している課、また、市内一円に設置してきたので各支所を統括する課、観光・広報に係る課などで構成している。
委員長	委員会は利活用方法だけでなく、「賞」の在り方もふくめて検討するのか。
事務局	在り方そのものも、考えていくことになる。
委員	彫塑にはとてもお金がかかる。その彫塑をやっていく人を育てていくためにも野外彫刻を続けていくべきだ。 レベルの低い人たちで審査するのではなく、外部から選考委員を連れてきてもいいと思う。
委員	委員全員を長野の人をお願いするのではなく、中に一人地元の人を入れてほしいということだ。
委員	資料3ページの「芸術文化振興基金助成金」の「③地域交流・発信部門」というのは、どのようなものを想定しているのか。
事務局	各地区で文化芸術祭があるが、そのうち長野市からの人的・金銭的支援を受けていない団体が実施するものが対象となる。
委員	地域に根ざした伝統芸能・祭り・年中行事があるが、それは中山間地に多いような気がする。維持したくても、過疎化という問題があるため、金銭的支援のほか、他部署と連携をとりながら人的支援についても考え取組んでもらえればありがたい。そうすれば、過疎化に悩む地域でも誇りを持ちながらやっていけると思う。

事務局	「芸術文化振興基金助成金」のほか、伝統芸能を後世に引き継いでいくための「伝統芸能後継者育成事業補助金」というものがある。
委員長	長野市は、伝統芸能の団体について把握しているか。
事務局	「伝統芸能後継者育成事業補助金」は公民館を通じて募集している。これまで補助金を交付してきた団体については把握している。
委員長	ある県では、県内にある太鼓・神楽などの団体について、沿革、規模のほか、後継者問題・予算など具体的に何に困っているのかなどを調査し、一冊の本にまとめた。調査は大変だが、援助する前にどこにどんな団体があるのかを、公的な所が知っているということは団体にとっても励みにもなる。データを集めることは、課題の把握にもつながるので、対応願いたい。
委員	資料8ページに東京芸術大学との連携事業があり否定するものではないが、長野市には信州大学教育学部などもあるので、今後、連携していったら、お互い支え合う関係になればいい。
委員長	信州大学教育学部でも同様の事業をやることは可能だと思う。教育学部に限らず、人的資源・組織を生かしてほしい。
委員長	委員お一人ずつ、意見・提案をお願いしたい。
委員	長野市では、野外彫刻と音楽が中心になっているように思う。 10年後、20年後、少子化によって、集落がなくなっていく。私が住む町でも各地区に神楽があるが、若い人でも60歳代である。市は助成金を交付するだけでなく、地域に残るものにもっと目を向けてほしい。 芸術館ができるが、長野らしいものを見つけてほしい。
委員	多様な文化発信の中核となる芸術館が造られるが、芸術館と合わせて篠ノ井市民会館、ノルテなど市内に他施設とのネットワークを大事にしてほしい。 中山間地、特に西山地区の伝統芸能についても、みんなが継承していけるようなプログラムを組むとともに、助成するということも他部門と連携して続けてほしい。芸術館は、音楽など華やかな文化芸術とともに、地道な文化の醸成にも役割を果たしてほしい。 芸術館を建設するにあたって、ヒマラヤ杉を1本だけでも伐採せずに残しても

らったことはありがたい。市庁舎と芸術館の間に造られるニワも、長野市らしい自然環境に配慮してほしい。また、芸術館には市指定の文化財や野外彫刻の写真が大きな画面で放映されるコーナーがあるといい。

駐車場について、敷地が狭く公共交通機関を利用してほしいということにはなっているが、周辺部に何らかの形で、身体が不自由の方、車で来られる皆さんにも足を向けてもらえるように考えていく必要がある。

委員

長野は広く、野外彫刻が分散しているので、「あそこに行けばすばらしい彫刻が見れる」という場所がほしい。良いものを見て感動していただくためには、まずは接していただく必要がある。

芸術館にはスペシャルなものとの出会いという役目もあると思う。良いものを提供して、信頼を勝ち得ていくと、必然的に予算、経済がついてくる感じがする。スペシャルなものの考え方、企画力を持った人が何人かいないと、予算を有効に使っていくことができない。

来年、新幹線が延伸するなかで、長野に来ていただくために、例えば長野駅にいろいろな芸術のパフォーマンスができる場所を考えていただき、一週間に1回、一か月に1回でもいいからパフォーマンスをして、長野駅にいけばこんなことをやっているということで、観光客を呼び戻すなど、人的流れを作る。また、芸術館では、ここでしか見れない、聴けないというものをやったらいいのではないか。

善光寺と芸術館と和食文化とをパックにして、JRにタイアップしてもらおうとか、長野ならではのすばらしい景色、自然を生かすとかはどうか。

委員

審議会では毎回、予算がかかる野外彫刻のことが論議される。長野らしさということ考えたときには、野外彫刻は浮かんでこない。これからは、長野らしいという意味で昔からある善光寺を発展できたらと思う。

昭和40年以降資金不足や引き手がないという理由でご開帳のとき以外は途絶えていたながの祇園祭を、平成12年に再開させ、屋台巡行を行っており、所属する青年会議所もこれに関わっている。屋台を組み立てるだけで数百万円かかるということで、資金は企業からの協賛金や自治体のお金で賄っている状況だ。

芸術館の広場に屋台を展示するとか、毎年7月に開催される祇園祭をとおして、長野に止まっていただくことを考えていきたい。

委員

文化芸術振興審議会では、本来は、野外彫刻に限らず、もっと大きな話をすべきだと思う。しかし、文化芸術というと、非常に多岐にわたってしまい、議論

をしても何の効力もないので、小さなところから変えたらどうかという観点で発言してきた。

行政が文化芸術を考える場合は、目的や効果ということを考えるだろうと思う。文化芸術も道路などの建設物と同じであり、道路が必要なように文化芸術も必要で、市民生活を豊かにしていくものだと思う。音楽、演劇、美術が、どんな状況にあって、何が足りなくて、どんな需要があって、5年後、10年後どのようにしていきたいのか、専門家によって専門的に考えていく体制をつくってほしい。文化芸術振興審議会のあり方を考えた方がいい。

上田市のフィルムコミッションは、市の組織の中にあるが、専門的な契約職員がいて小回りが利く体制になっていた。文化芸術の振興を考えると、専門的にやってきた人が、市の中にいたらいいのではないかと思っている。

委員

美術関係を中心に話をしたい。

松本と長野を比較して、文化は松本が進んでいて、長野は遅れているということを知る。

長野には北信美術会があり、松本には中信美術会という組織がある。組織の大きさも、レベルも大きな差はない。長野市の助成金の委員も務めているが、助成金には50数団体の応募があり、それ以外にも非常に沢山の団体・クラブが活動をしている。市民レベルの活動を考えると、長野でも松本と同じように、盛んである。

では、長野と松本の違いは何かというと、他の委員の話にもあったとおり、スペシャルなものの違いだと思う。サイトウ・キネン・フェスティバルのような目玉商品があるかないか。まつもと市民芸術館を拠点にいろいろな大きな催しをして、非常に目立っている。長野にも芸術館ができるので、それに匹敵するようなものができていくだろう。

ただ、美術に関していうと、松本には松本市美術館、長野には信濃美術館がある。松本の目玉は田村一男さんと草間弥生さん、長野は東山魁夷さんと池田満寿夫さんで、全く遜色がない。しかし、松本市美術館では長野県美術展(通称県展)の650点を展示することができる。毎年1月に長野市風景画展を信濃美術館で開催しているが、せいぜい250点しか展示できない、これが差である。中央の美術団体も地方を巡回する時代で、日展もあちこちで開催されている。中央の美術展を信濃美術館では受け入れることはできない。

長野市に拠点となる美術館がほしい、それが切なる願いだ。しかし、長野市に市立の美術館を造ることは難しいだろう。信濃美術館を大規模に改修していただき、県展ができる規模にしていいただきたい。長野市も協

力して大きなスペースに改修して、美術の拠点としてほしい。
信濃美術館は善光寺の近くにあり、地の利もある。金沢に行けば 21 世紀美術館に行くように、観光客はその土地の美術館に行く。

委員

芸術館では、独特のものを、あそこにいったら見れるというものをやってほしい。吹奏楽コンクール、ダンスコンクール、ピアノコンクールなど、若手のコンクールをやればいいと思う。
若手に小ホールを委託するとかして、若い人に新しいことをやってほしい。

委員長

審議会のあり方については難しい問題がある。
基金の運営委員会には私も出ているが、あの運営委員会では、若手とか、十分形になっていない芽を育てていくことに重きを置くということで、委員会の意見を反映させてもらったので、期待してしまう部分があったのかもしれない。
今後は、芸術館の中身をどうしていくか、アイデアをしっかり持った方が管理し、スペシャルなものに出会わせていくということが大事だ。
本物で目を開かせて、子どもを育てないと芸術の未来はない。

(2) 長野市芸術館について 建設現場を見学